

まえがき

拙著「好きになる救急医学」の初版を出版してから6年が経過しました。この間、我が国の救急医療体制は地域ごとに核となる救急医療施設を中心に整備が進められました。また、救急救命士の数が増加し、現場や救急車内での医療（病院前救護）の質が向上しつつあります。さらに、非医療従事者に対する心肺蘇生法教育がさかんに行われ、一般市民の救急医療への関心も高くなってきたようです。一方で、高齢化の進展とともに心肺停止などの重症患者の搬送件数が増加しています。その結果、医療機関と搬送を担う消防との協力関係が不可欠となり、両者のチームワークが少しずつ進んでいるのは喜ばしいかぎりです。

そのような中で2010年には心肺蘇生法についての国際ガイドラインが改訂され、これを受けて我が国でも「改訂版 救急蘇生法の指針2010」が2011年10月に出版されました。本書では、新しい救急蘇生法の指針に準拠した内容に改訂されています。

今年の3月11日には東日本大震災ならびに福島原子力発電所の事故が起き、災害医療にも関心が集まっています。平時の救急医療と災害医療は異なる医療ではありますが、災害時に活躍するのは救急医療の関係者であり、災害医療は救急医療の一分野と考えられます。東日本大震災を踏まえて、災害医療についても加筆訂正を行いました。

本書は、救急医学の全体像をわかりやすく解説した入門書です。医学生、看護学生はもとより、救急救命士や他の医療関連職を目指す学生さんが救急医学を学ぶとりかかりとなるやさしい内容になっています。単に救急医学の知識を記述したのではなく、重要事項の背後にある理論や考え方もわかりやすく解説しています。犬のベルちゃんとの会話で話が進められますので、楽しみながら学んでいただけたらと思います。初版同様、改訂“ベルちゃんの本”が多くの皆様にご愛読いただけることを願っています。

2011年11月30日

小林國男